

# 2018年3月期 第2四半期決算説明会

2017年10月31日

## 資料取り扱い上の注意

- ・本資料および口頭にて提供する業績予想は、当社が発表日現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- ・本資料に記載しております数字につきましては、単位未満切捨てで処理しております。比率は四捨五入しております。

株式会社SCREENホールディングス  
代表取締役 取締役社長 最高経営責任者 (CEO)

垣内 永次

## ▶▶ 2018年3月期 第2四半期決算のポイント

- 前年同期比、増収増益。売上は176億円増（+13.0%）  
営業利益は47億円増（+38.9%）  
営業利益率は、2.1pt増加の11.0%
- 全セグメントの受注高は、前年同期比で増加  
受注残高(1,284億円)は、半期末としては過去最高
- SEの好調な業績、および、受注環境を受け、  
下期、通期予想を上方修正
- 通期予想の上方修正を受け、増配・自社株買いを予定

## 本日のアジェンダ

### 1. 2018年3月期 第2四半期 連結業績



### 2. 2018年3月期 第2四半期 セグメント別業績概況



### 3. 財務状況



### 4. 2018年3月期 業績予想



### 5. ESG関連の取り組み



## 1. 2018年3月期 第2四半期 連結業績



## 2. 2018年3月期 第2四半期 セグメント別業績概況



## 3. 財務状況



## 4. 2018年3月期 業績予想



## 5. ESG関連の取り組み



連結業績 <2018/3月期 第2四半期>

(億円)	2017/3月期						2018/3月期				
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	上期	前上期比	
売上高	622	738	1,361	738	902	3,002	729	808	1,538	176	13.0%
SE	412	503	916	506	637	2,060	465	532	998	81	8.9%
GA	96	124	220	104	132	458	108	139	248	27	12.2%
FT	93	86	179	108	93	381	129	99	228	49	27.4%
PE	18	21	39	16	33	89	23	33	57	18	46.0%
その他および調整	1	2	4	3	5	12	2	3	5	1	23.0%
営業利益	51	70	121	91	124	337	73	95	169	47	38.9%
営業利益率	8.2%	9.6%	8.9%	12.4%	13.7%	11.2%	10.1%	11.8%	11.0%	-	2.1pt
SE	43	60	103	80	108	293	64	81	145	41	40.1%
GA	▲2	8	5	1	7	14	1	10	12	7	133.2%
FT	12	5	17	11	14	43	11	7	18	1	6.5%
PE	1	1	3	1	2	7	0	3	3	0	12.9%
その他および調整	▲3	▲5	▲8	▲3	▲9	▲21	▲4	▲7	▲11	▲3	-
経常利益	50	66	116	90	112	320	75	89	164	47	40.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	37	57	94	68	78	241	51	55	106	12	12.8%

SE : 半導体機器事業

FT : ディスプレー製造装置および成膜装置事業

GA : グラフィックアーツ機器事業

PE : プリント基板関連機器事業

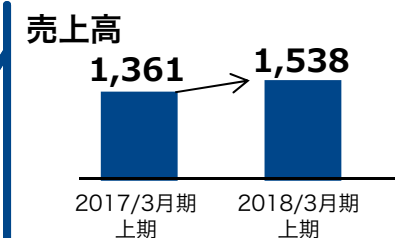
※2017年4月よりPEは報告セグメント

連結業績サマリー <2018/3月期 第2四半期>

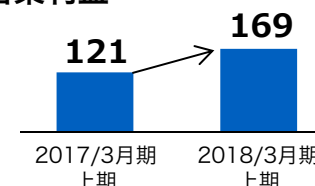
前年同期比

(億円)	2017/3月期	2018/3月期	増減	
	上期	上期		
売上高	1,361	1,538	176	13.0%
営業利益 営業利益率	121 8.9%	169 11.0%	47 2.1pt	38.9%
経常利益	116	164	47	40.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	94	106	12	12.8%

前年同期比



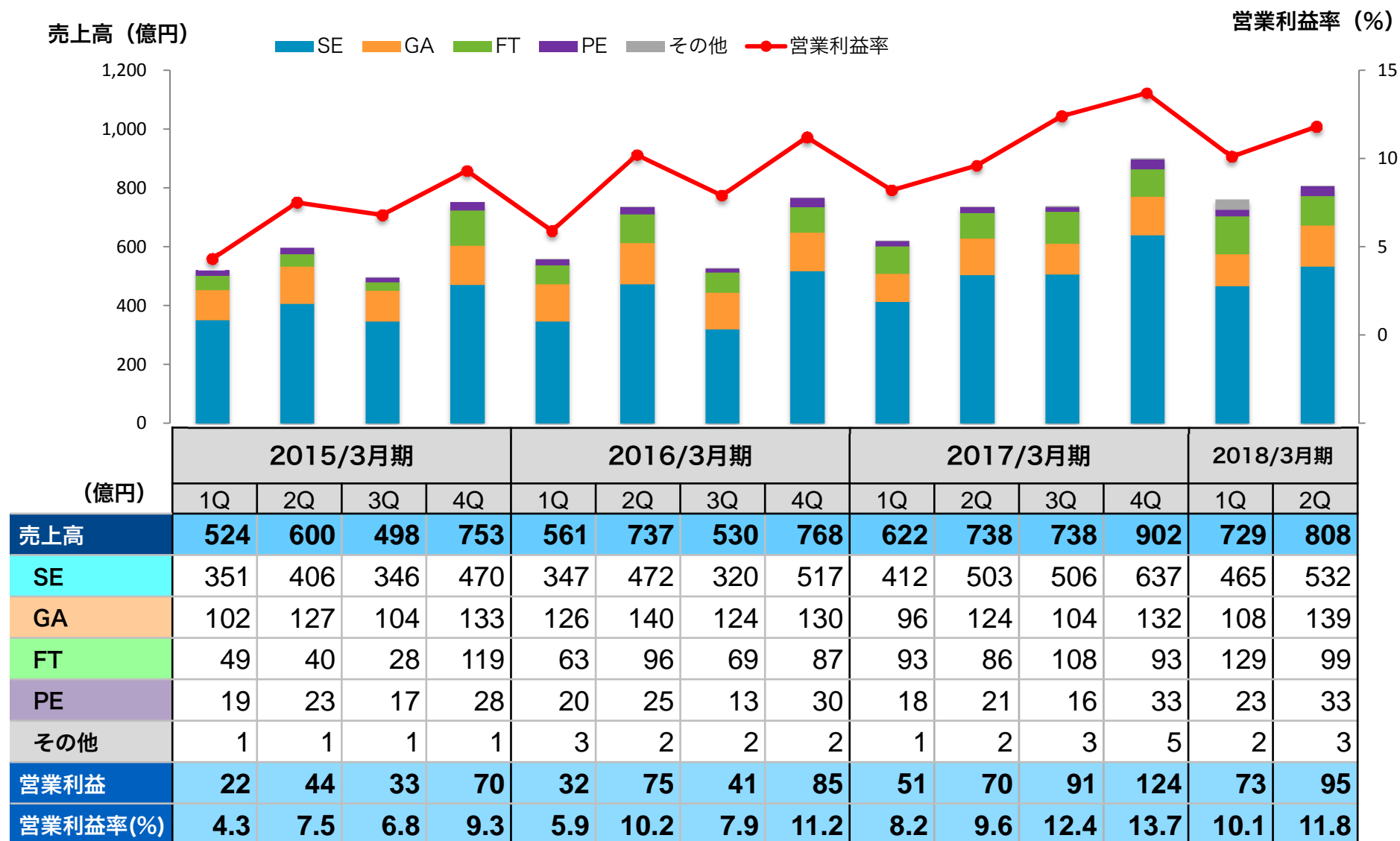
営業利益



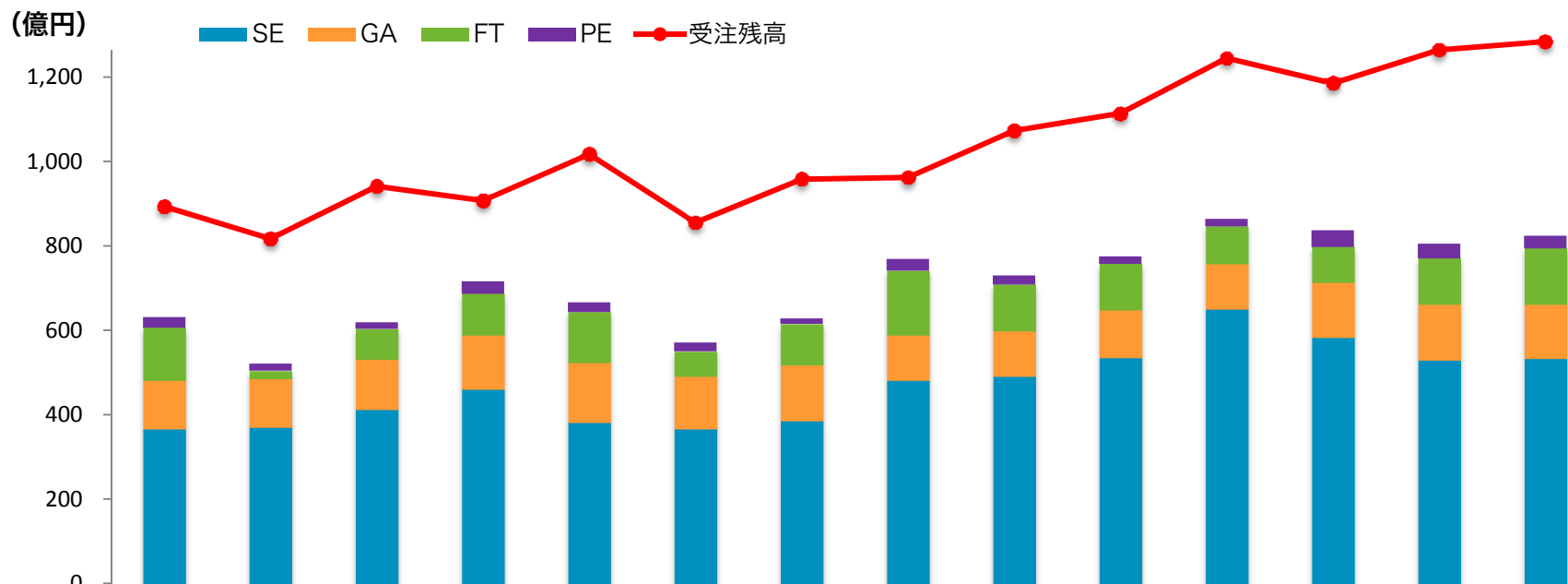
前四半期比

(億円)	2018/3月期	2018/3月期	増減	
	1Q	2Q		
売上高	729	808	79	10.9%
営業利益 営業利益率	73 10.1%	95 11.8%	21 1.7pt	29.1%
経常利益	75	89	14	18.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	51	55	3	7.2%

## 連結売上高/営業利益の四半期推移



## 連結受注高/受注残高の四半期推移



(億円)	2015/3月期				2016/3月期				2017/3月期				2018/3月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
<b>受注高</b>	<b>632</b>	<b>521</b>	<b>620</b>	<b>718</b>	<b>667</b>	<b>573</b>	<b>630</b>	<b>770</b>	<b>731</b>	<b>776</b>	<b>866</b>	<b>837</b>	<b>806</b>	<b>825</b>
SE	366	369	411	459	381	367	386	481	491	533	648	581	529	532
GA	115	115	120	129	141	123	130	106	106	113	108	131	131	129
FT	125	20	72	98	121	60	99	154	111	111	90	85	110	133
PE	25	17	16	30	23	21	13	28	22	18	18	40	35	30
<b>受注残高</b>	<b>893</b>	<b>817</b>	<b>941</b>	<b>907</b>	<b>1,017</b>	<b>855</b>	<b>958</b>	<b>962</b>	<b>1,073</b>	<b>1,114</b>	<b>1,245</b>	<b>1,185</b>	<b>1,264</b>	<b>1,284</b>



1. 2018年3月期 第2四半期 連結業績



2. 2018年3月期 第2四半期 セグメント別業績概況



3. 財務状況



4. 2018年3月期 業績予想



5. ESG関連の取り組み

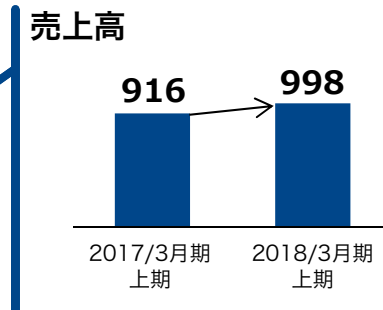


セグメント別業績概況 <SEセグメント>

前年同期比

(億円)	2017/3月期	2018/3月期	増減	
	上期	上期		
売上高	916	998	81	8.9%
営業利益 営業利益率	103 11.3%	145 14.6%	41 3.2pt	40.1%

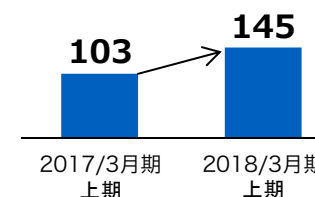
前年同期比



前四半期比

(億円)	2018/3月期	2018/3月期	増減	
	1Q	2Q		
売上高	465	532	66	14.3%
営業利益 営業利益率	64 13.8%	81 15.3%	17 1.5pt	27.0%

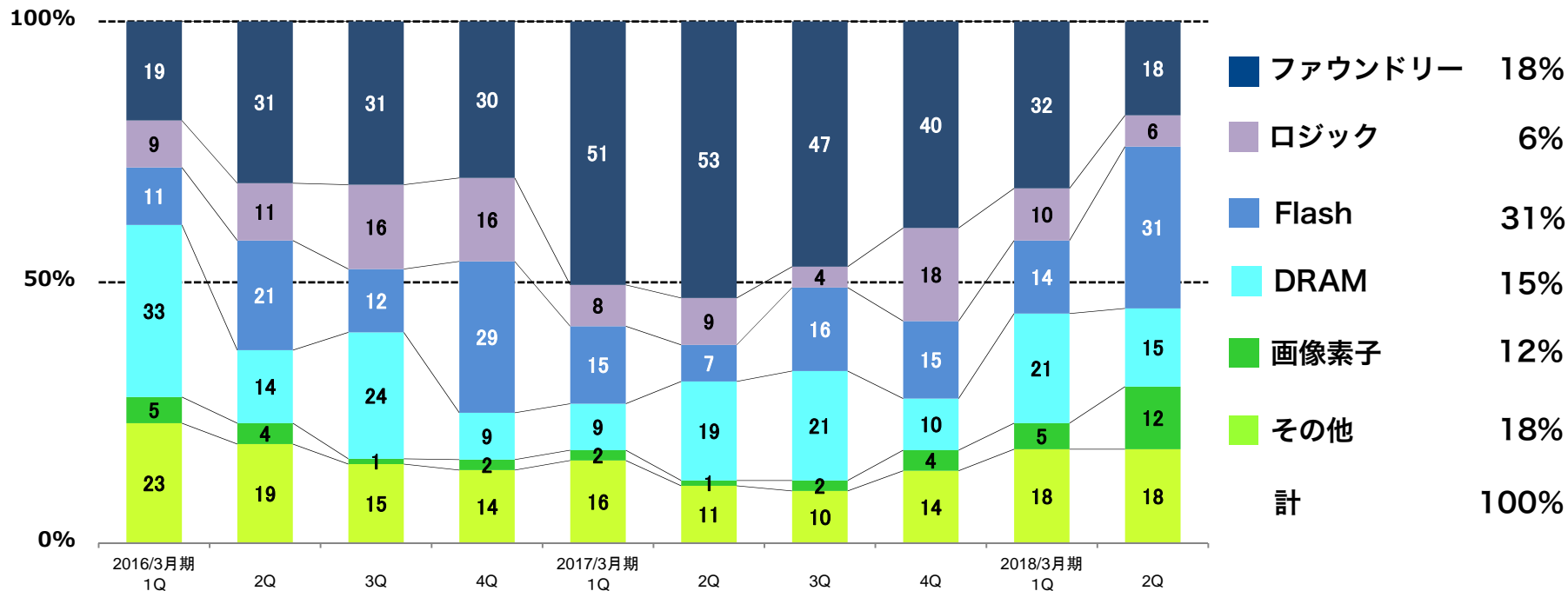
営業利益



▶ 前年同期比、増収・増益

→ 上期としては、過去最高の売上・営業利益を更新

単独・デバイス別受注比率・四半期推移 <SEセグメント>



➡ 2Qの連結・受注高は532億円と高水準  
今後もしばらくは堅調に推移すると見る

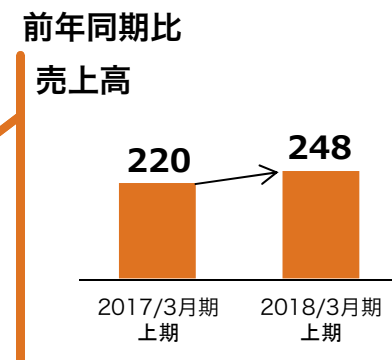
## SE・市場環境と取り組み

- ファウンドリー/ロジック： 先端ノード(7nm以降)へ微細化進行  
→多様化するプロセス要求に合わせた枚葉洗浄装置のアプリケーションを拡充、最先端EUVリソグラフィ向けのコーターデベロッパー投入
- メモリー（特に3D-NAND）： 成長は力強く継続中  
→要求の高まるバッチ洗浄装置の性能向上、枚葉洗浄装置の戦略的展開
- モバイル、車載向けなどのIoT関連市場の拡大、ならびに、Advanced Package 分野の台頭  
→多様な要求に対応するフロンティア装置のラインアップ充実、Advanced Package分野で直接描画露光装置を展開
- 中国市場の本格的な拡大  
→顧客サポートを中心とした体制強化

セグメント別業績概況 <GAセグメント>

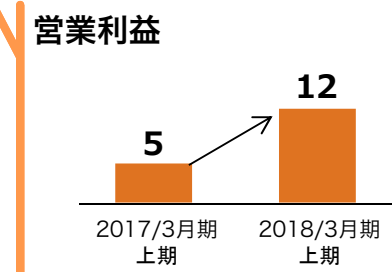
前年同期比

(億円)	2017/3月期	2018/3月期	増減	
	上期	上期		
売上高	220	248	27	12.2%
営業利益 営業利益率	5 2.5%	12 5.2%	7 2.7pt	133.2%



前四半期比

(億円)	2018/3月期	2018/3月期	増減	
	1Q	2Q		
売上高	108	139	31	28.9%
営業利益 営業利益率	1 1.7%	10 7.8%	9 6.2pt	499.0%



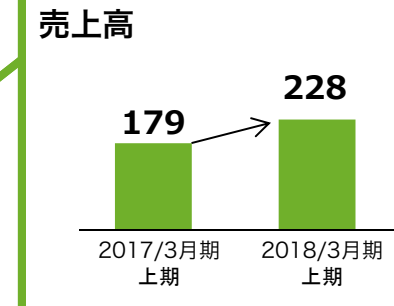
- 上期は、前年同期に比べ、増収・増益
- 2Qは、前四半期比で、売上・営業利益とも大幅改善
- 上期、CTPの売上は減少するも、PODは増加

セグメント別業績概況 <FTセグメント>

前年同期比

(億円)	2017/3月期	2018/3月期	増減	
	上期	上期		
売上高	179	228	49	27.4%
営業利益 営業利益率	17 9.9%	18 8.2%	1 ▲1.6pt	6.5%

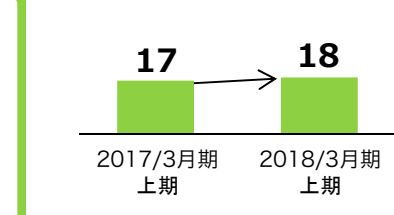
前年同期比



前四半期比

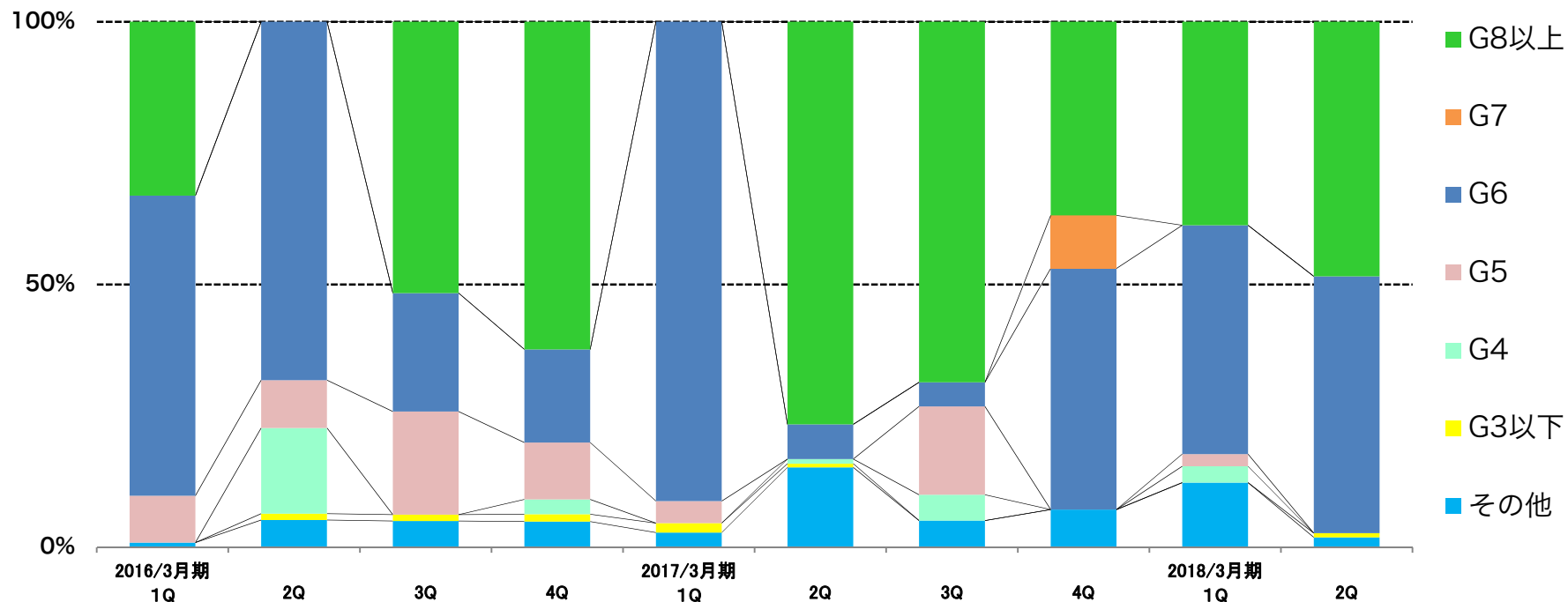
(億円)	2018/3月期	2018/3月期	増減	
	1Q	2Q		
売上高	129	99	▲29	▲23.0%
営業利益 営業利益率	11 9.0%	7 7.3%	4 ▲1.7pt	▲37.5%

営業利益



➤ 上期、前年同期比で増収するも、株式会社SCREENラミナテックの  
設立費用などもあり、営業利益は微増に留まった

単独・製品サイズ別受注比率・四半期推移 <FTセグメント>



➤ 2Qの連結・受注高は、133億円と高水準  
 →大型、中小型向けともに堅調。OLED関連は40%程度

➤ 3Q以降の受注も、引き続き堅調に推移する見込み

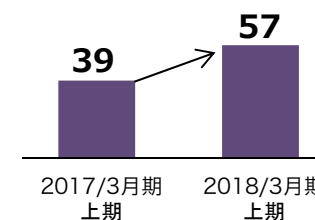
セグメント別業績概況 <PEセグメント>

前年同期比

(億円)	2017/3月期	2018/3月期	増減	
	上期	上期		
売上高	39	57	18	46.0%
営業利益 営業利益率	3 8.8%	3 6.8%	0 ▲2.0pt	12.9%

前年同期比

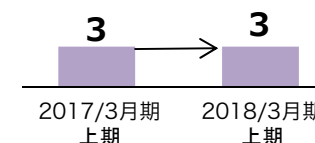
売上高



前四半期比

(億円)	2018/3月期	2018/3月期	増減	
	1Q	2Q		
売上高	23	33	10	42.0%
営業利益 営業利益率	0 3.1%	3 9.4%	2 6.3pt	334.4%

営業利益



▶ 上期売上が初の50億円突破

→通期売上は、当セグメントとしては過去最高の114億円を予想

主力の露光装置（直接描画装置）は、引き続き好調



1. 2018年3月期 第2四半期 連結業績



2. 2018年3月期 第2四半期 セグメント別業績概況



**3. 財務状況**



4. 2018年3月期 業績予想

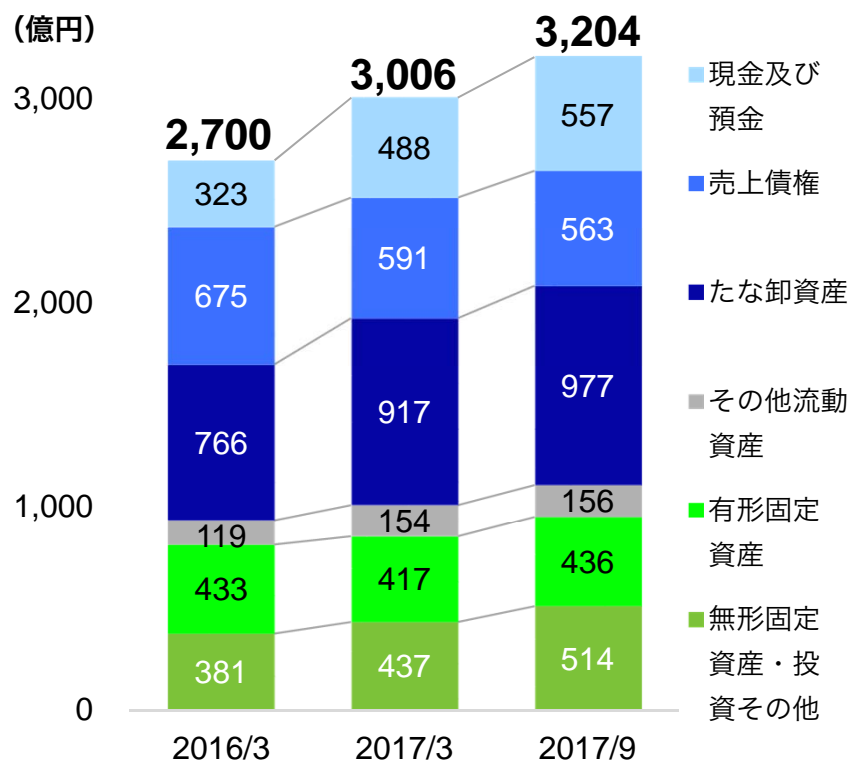


5. ESG関連の取り組み

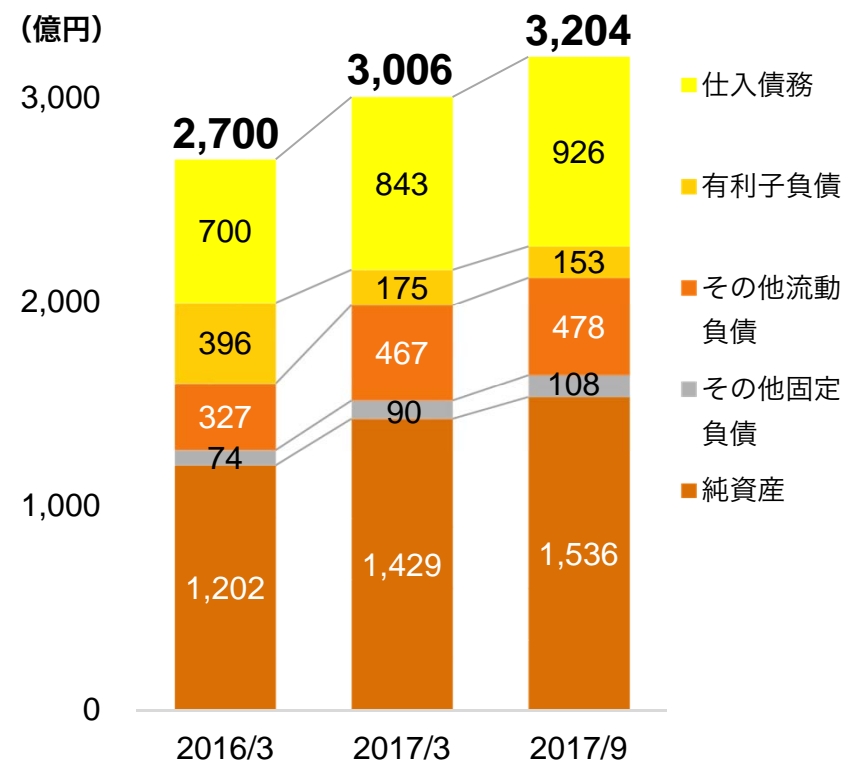


## 連結貸借対照表

### 資産の部



### 負債および純資産の部

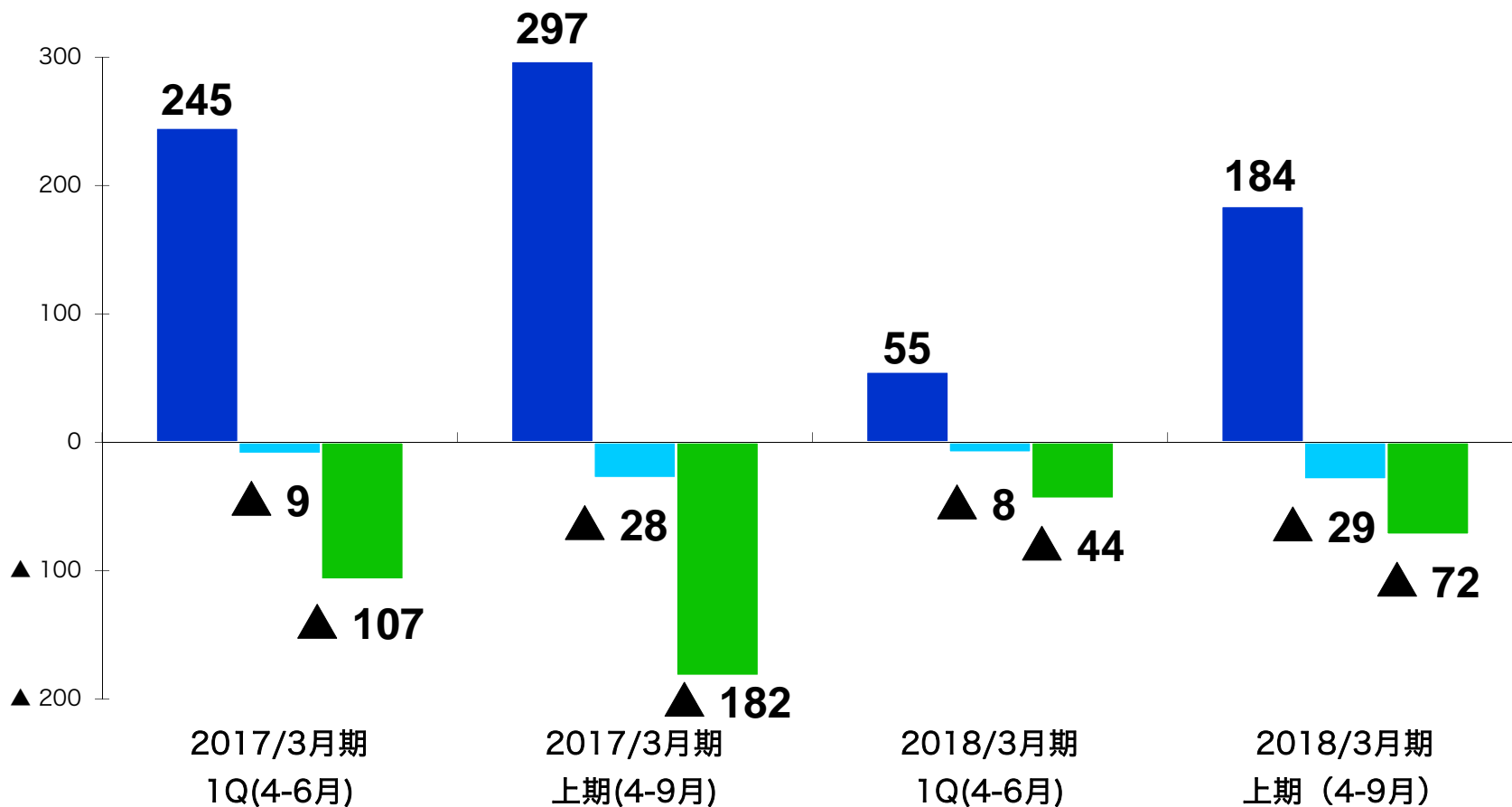


自己資本比率 **47.5%** (2017/3月末) → **47.9%** (2017/9月末)

連結キャッシュ・フロー

(億円)

■ 営業CF    ■ 投資CF    ■ 財務CF



2018/3月期 上期 フリーキャッシュ・フロー →

**154億円**

1. 2018年3月期 第2四半期 連結業績



2. 2018年3月期 第2四半期 セグメント別業績概況



3. 財務状況



4. 2018年3月期 業績予想



5. ESG関連の取り組み



## 2018年3月期 業績予想

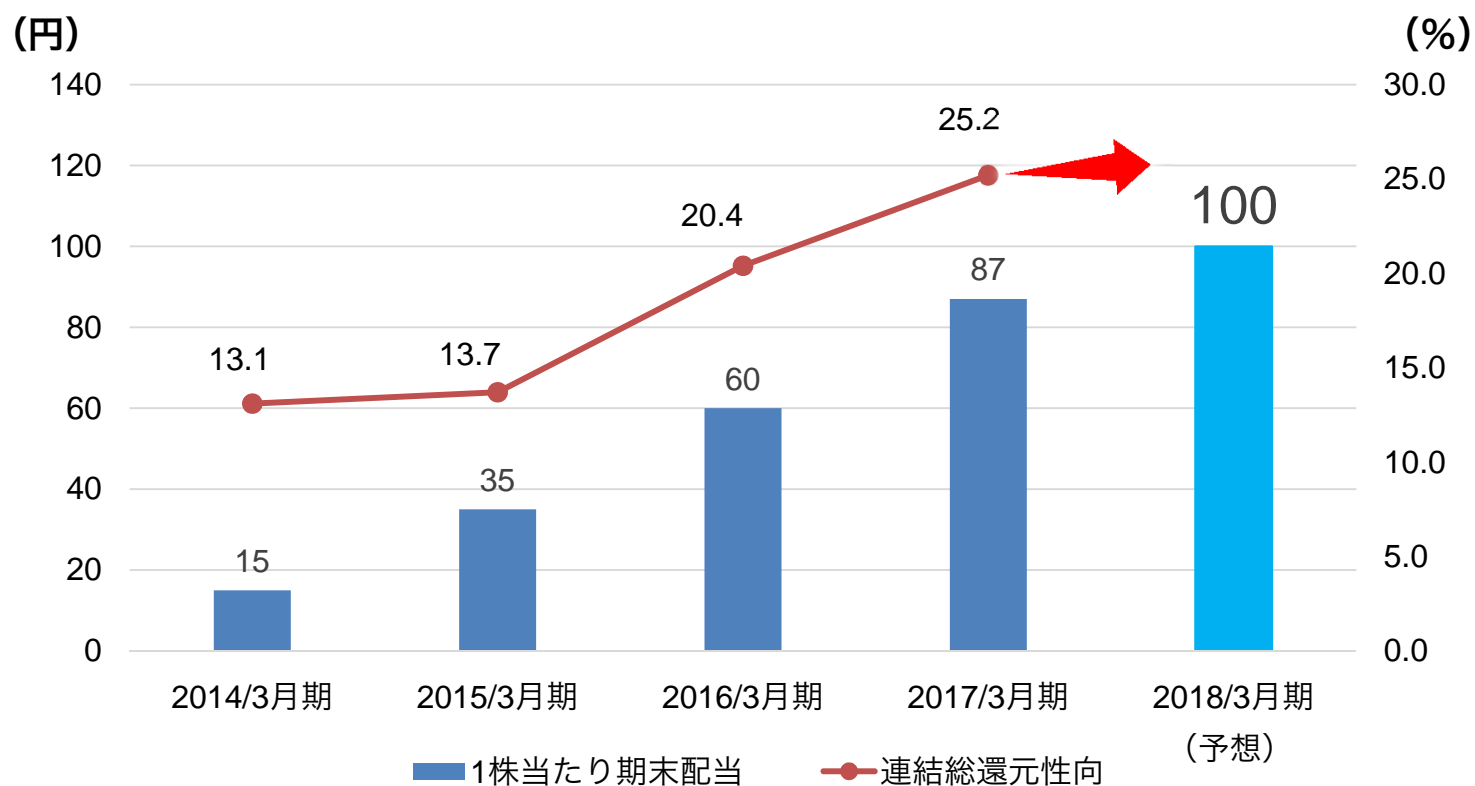
(億円)	上期		下期		通期		
	8月発表	実績	8月発表	10月発表	8月発表	10月発表	増減
売上高	<b>1,510</b>	<b>1,538</b>	<b>1,660</b>	<b>1,831</b>	<b>3,170</b>	<b>3,370</b>	<b>200</b>
SE	990	998	1,155	1,291	2,145	2,290	145
GA	240	248	253	261	493	510	17
FT	220	228	190	206	410	435	25
PE	52	57	48	56	100	114	14
その他	8	5	14	15	22	21	▲1
営業利益	<b>152</b>	<b>169</b>	<b>218</b>	<b>240</b>	<b>370</b>	<b>410</b>	<b>40</b>
営業利益率	10.1%	11.0%	13.1%	13.1%	11.7%	12.2%	0.5pt
経常利益	<b>151</b>	<b>164</b>	<b>217</b>	<b>241</b>	<b>368</b>	<b>406</b>	<b>38</b>
親会社株主に帰属する 当期純利益	<b>96</b>	<b>106</b>	<b>154</b>	<b>163</b>	<b>250</b>	<b>270</b>	<b>20</b>

注) 想定為替レート>> 1USドル=105円、1ユーロ=125円  
 期末配当予想>> 1株当たり100.00円

(ご参考>> 8月予想：1USドル=105円、1ユーロ=115円)  
 (ご参考>> 8月予想：87.00円)

## 株主還元

通期予想の上方修正を受け、1株当たり予想配当を100円（従来比+13円）に引き上げ、自己株式取得（2017年11月1日～2018年3月31日、上限20億円もしくは30万株）を予定。連結総還元性向25%以上を目指す



\*上記配当数値は、2016年10月1日付で実施した株式併合（5株を1株に）後の基準で換算したものです

1. 2018年3月期 第2四半期 連結業績



2. 2018年3月期 第2四半期 セグメント別業績概況



3. 財務状況



4. 2018年3月期 業績予想



5. ESG関連の取り組み









## ESG関連の取り組み




当社グループでは、かねてよりCSR経営の推進に努めていますが、今後もグローバル企業として成長し続けるために、国際連合が提唱する「国連グローバル・コンパクト」の4分野10原則を尊重し、確実に実践していくことにより、社会の持続可能な発展に向けてグループを挙げて活動していきます。

<2016年10月に国連本部に記名登録>

### 特定した重点課題

<b>E</b> (環境)	重点課題	2020年3月期の姿	SDGs
	「環境価値」を創造し、低炭素・循環型社会へ貢献		
	環境負荷低減に貢献する製品・サービスの提供	・環境配慮型製品・サービスでCO <sub>2</sub> 削減するなど事業を通じて貢献している	
環境保全のための積極的な取り組み	・事業活動において環境負荷を低減するとともに、森林保全や生物多様性など積極的な保全活動を展開できている		

<b>S</b> (社会)	ディーセント・ワーク <sup>*1</sup> の実現と、社会的価値の創造		
	健康の確保と、仕事の質的向上をはかる働き方改革	・従業員一人ひとりの健康を確保し、生き生きとした活動ができている ・生産性と効率性を向上させ、ワークライフバランスを実現できている	
	多様な人材の育成	・従業員が自分のキャリア形成に積極的に取り組む ・管理職を含めた後継者育成の考え方、および育成プランができている	
	CSRサプライチェーンの推進	・サプライチェーンにおけるCSR行動規範が、確実に実践されている	
共生、思いやり、次世代育成を柱とした社会貢献活動	・5つの重点分野 <sup>*2</sup> で継続的に活動を行い、当社の特徴が社内外に定着し始めている ・多くの従業員が参画できる活動が展開できている		

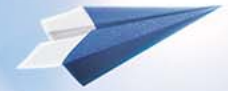
<b>G</b> (ガバナンス)	守りと攻めのガバナンス体制の推進とESG情報の戦略的開示		
	攻めのガバナンスを支える内部統制・リスクマネジメント体制の構築	・経営の健全性と透明性を担保する内部統制が適切に運用できている ・中長期の経営目標達成のための体系的なリスク管理ができている ・社内通報制度が海外を含むグループ全体で有効に運用されている	 
ESG情報の積極的な開示と社内外での共有	・CSR国際基準を正しく理解し、実践できていることを前提に、非財務情報の効果的な開示と積極的なステークホルダーエンゲージメント対応		

- 注) \*1 ディーセント・ワーク：働きがいのある人間らしい仕事  
 \*2 5つの重点分野：「サイエンス・教育」「スポーツ・文化」「社会福祉」「環境保全」「地域貢献」  
 \*3 社会貢献活動の受益対象によって、関係するSDGsの目標も変動



**SCREEN**

**Fit your needs, Fit your future**



**SCREEN**